

# 笑ってごらん

第 651 号 2019. 4. 22 発行

～今日の格言～

気取らないこと。とにかく飾らない。自分を大きく見せようとする段階で人は嘘をつくし、それはすぐに見破られるものですよ。  
(志村けん)



「令和」と書かなければならないか、それとも「令和」で良いのか・・・、新元号が決定した時、実際に紙に書いてみてハタと気づいたことだ。

官房長官が掲げた紙には「令和」とあった。しかし、私たちは通常「令」の字は「令」と書く。最初「令和」を見せられているからか、「令和」だとイケナイ感じがしてしまうのは、私だけだろうか。どこかの局のコメンテーターが「令」でいいと言っていたので、多分それでいいのだろう。でも・・・、なんだかしっくりこない。

「昭和」から「平成」に移った時も、しばらくは「平成」という音の響きに慣れなかった。

学校には既に 5 月以降に行われる会議などのお知らせ文書がたくさん届いており、それらには「令和元年」と記されている。おそらく数多く目にする内に何の違和感も持たなくなるのだろう。

平成の世が終わるまで、もうカウントダウンが始まった。今はなんだか名残惜しい感じがする。身勝手なものである。

長い連休中に元号が変わる。世の中はすぐには変わらないのだろうが、すべてのことを取り扱う人々の「感覚」は少しずつ変わっていくのだろう。その内に何か大きな変化が生み出されるのかもしれない。

Loading  
2019

私たちは目の前に困難な壁が立ちはだかってしまった時、つまり自分の「できない」に出会ってしまった時、うろたえてしまうことがある。しかし、そうだからといって悲観になる必要はない。

自分のできないことを知ることは、最終的に進路を決める時に強い味方になる。「できない」の壁にぶつかりながら、「どうやったらできるようになるんだろう」とじっくり考え、「できる」の壁を探し続けること。

ただ、その「できない」が本当にできないことなのか、単にやる前から面倒を感じて「やろうとしない」だけなのか、どちらであるかの見極めも必要。もし、後者であるとする、それは怠け以外の何物でもない。

消極的でかっこ悪いことに聞こえるかもしれないが、自分の「できない」を見つける高校生活であって欲しい。繰り返しになるが、「できない」を知ることはとても大事な事。何ができないことなのかもわからずに、思い込みを頼りにしてそのまま突っ走ることの方がよほど怖い。

最後に、勘違いは禁物。「私にはできない」と判断し、あとは何もしないで良い、と言っているのではない。今できないなら、近い将来「できるようになる」、そういう決意をもって努力を怠らないようにしよう。そして、最終的には、できるようになった喜びを積みかさねることにより、活気あふれる楽しい学校生活をおくろう！

(H. 31. 4. 20 全校朝礼講話より)